

電力・エネルギー部門 (B) の活動状況の紹介



令和6年9月5日 電力・エネルギー部門大会（大阪公立大学）

令和6 / 7年度 電力・エネルギー部門長 **本山 英器**
（電力中央研究所）

B部門活性化に向けた課題と取り組み

1. 課題

- 専門領域・活動領域の拡大
- 若手会員の育成、女性会員の活動の促進
- 和文論文誌の強化、共通英文論文誌 (TEEE*-B) の質・量の向上
- 部門としての情報発信力 (広報力) の増強、等

*TEEE: Transactions on Electrical and Electronic Engineering (共通英文論文誌)

2. 取り組み

- B部門が描く社会の姿『ビジョン2030 ビヨンド』の具現化
 - 他部門・異分野・異業種との融合による対象領域の拡大とイノベーションの創出を目的に、令和2年度に策定した『ビジョン2030』を深化させた『ビジョン2030 ビヨンド』を令和4年度に作成
 - 『ビジョン2030 ビヨンド』の実現に向けた活動の実施
- 多面的な活性化方策の展開
 - 連携、広報、論文、学生・若手・中堅、キャリアアップ等の諸活動をきめ細やかに実施中

ビジョン2030 ビンド 『「2050年カーボンニュートラル」達成に向けて』 3

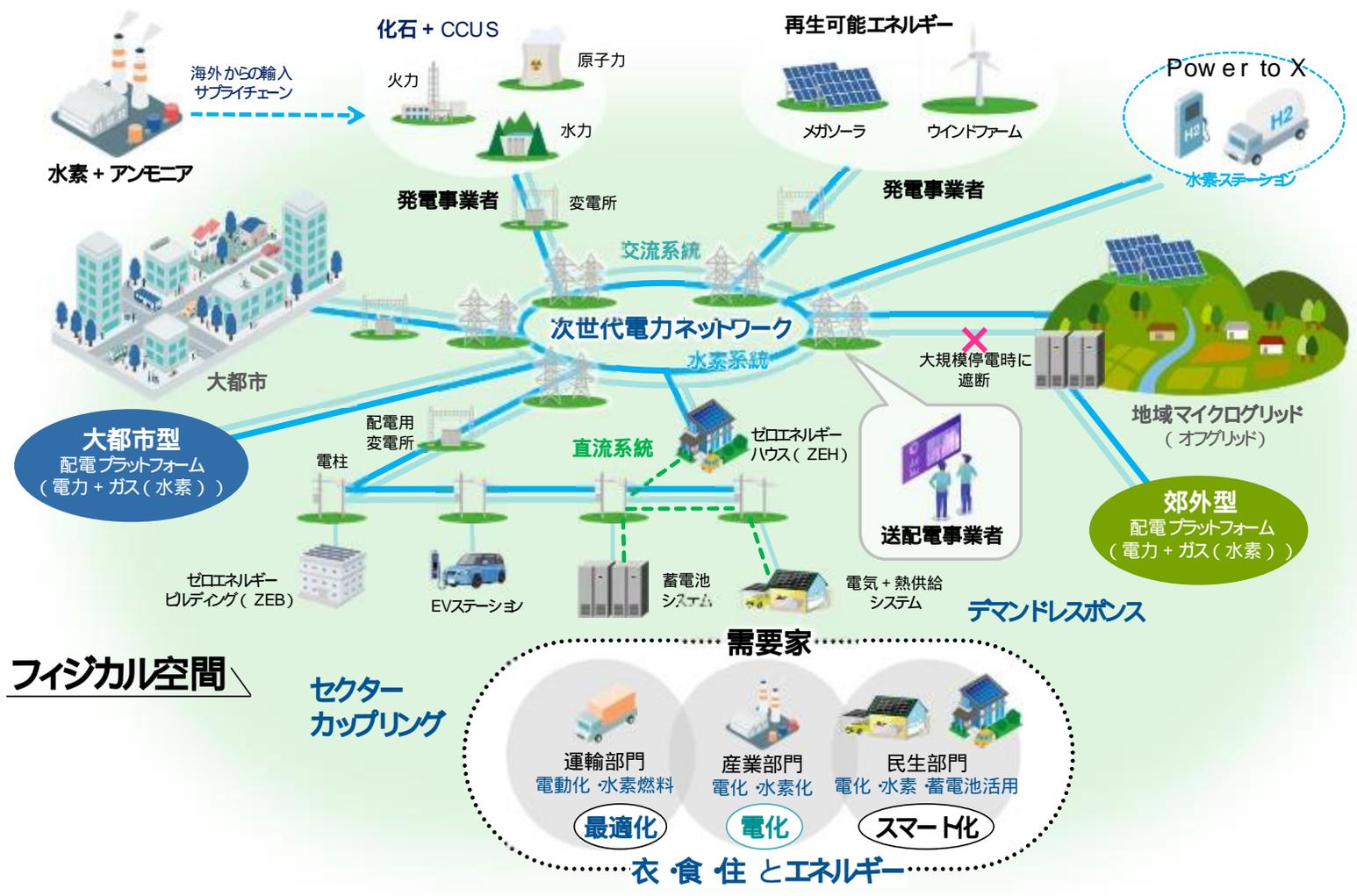


B部門が描く新たな電力の役割

- ・低廉かつ低炭素で安定な電気の供給
- ・異分野・異業種とのコラボでのプラットフォームとしてエネルギーインフラの下支え
- ・新たな産業の創出（電化、クリーンエネルギーへの投資、EVインフラ 系統の高度化）
- ・自然環境への貢献（クリーンエネルギー、水素）
- ・科学技術を担う多様な人材の創出・育成と活用促進および技術継承

チャレンジャーとしての電力・エネルギー部門

ビジョン2030ビヨンド 「B部門が描く社会の姿 ~ フィジカル空間 ~ 」



ビジョン2030ビヨンド 「B部門が描く社会の姿 ~サイバー空間~」



『ビジョン2030 ビヨンド』の具現化に向けたR5年度の取組み

体制	ビジョン作業会 (「ビジョン推進WG」)	研究調査運営委員会	技術委員会
役割	< ビジョン作成 > <ul style="list-style-type: none"> 技術委員会のロードマップ集約 新たな技術テーマをビジョンへ反映 	< 意見だし > <ul style="list-style-type: none"> コラボ可能案件の抽出 コラボ案件成立支援 	< ネット提供 > <ul style="list-style-type: none"> ロードマップ作成 新たな技術テーマ案 コラボ企画調整・実施

R5年度実施事項

研究・イノベーション学会連携：
R5B部門大会で座談会を共同開催
技術委員会によるロードマップの作成
技術委員会間の共通の技術課題整理

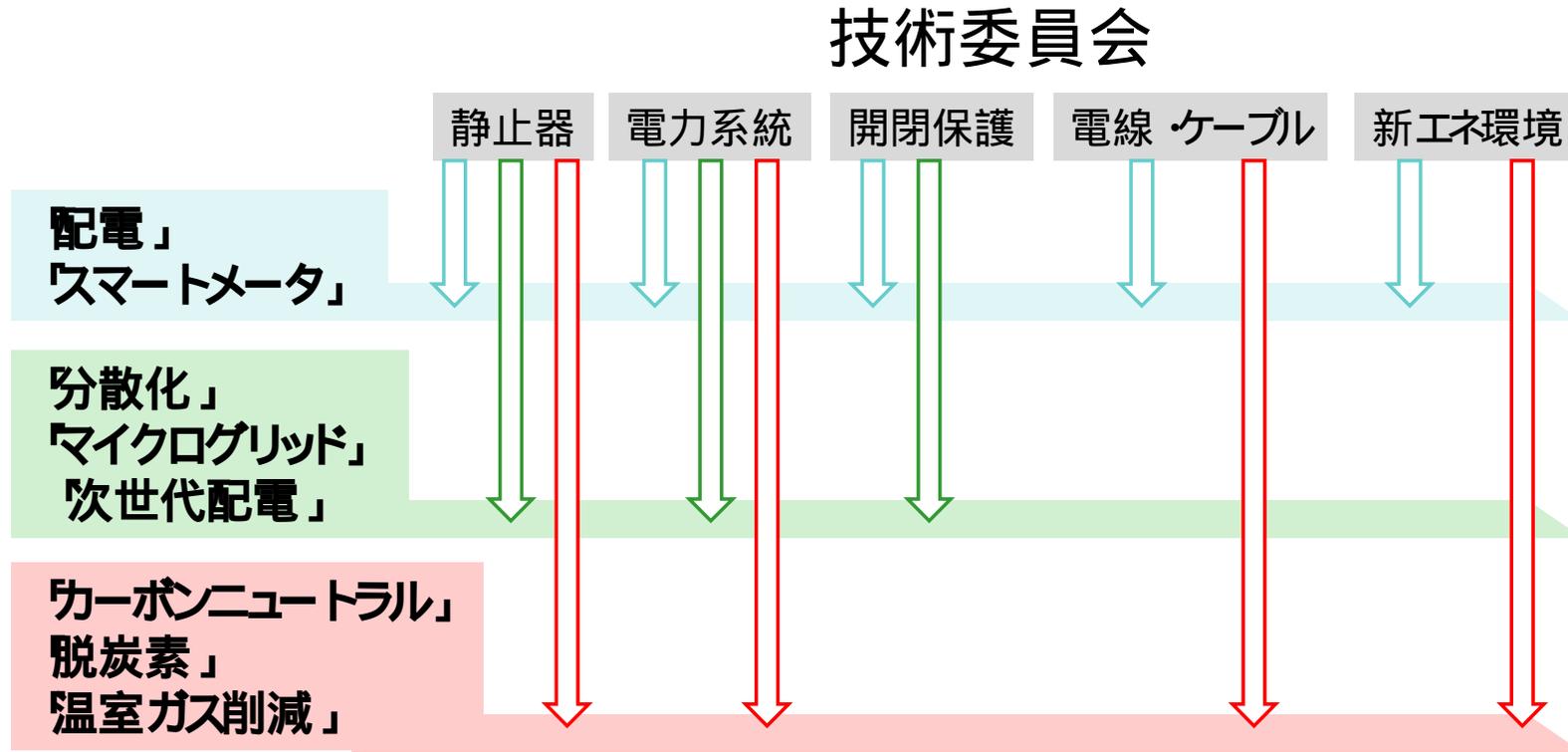


B部門が創る未来のビジョンを明確化

R6年度以降に実施予定

- ✓ R6部門大会でのパネルディスカッション企画
- ✓ 新調査専門委員会設立

ロードマップ内のキーワード例



共通するキーワードを基に技術委員会間のコラボレーションを実現

- 外部とのコラボレーションによる協業 協創も視野に活動を推進

B部門の活性化に向けた取り組み状況（1/4）

分類	状況	内容
ビジョン	実施中	B部門が描く社会の姿「ビジョン2030 ビヨンド」の策定完了 各技術委員会で施策具体化のため展開とローリング
連携	実施中	他部門・学会連携：活動活性化に向け国際委員会を設置 ・研究・イノベーション学会 令和5年部門大会にて座談会開催 ・IEEE PES MOU締結に向け継続協議中
広報	実施中	HPでの「用語解説」の公開、メレマガ、SNS等の情報配信
論文	実施中	共通英文論文誌 特集号の活用、和文優秀論文の英語化
	実施中	令和2年度に創設したB部門「論文査読貢献賞」制度を運用中
	実施中	部門大会・研究会資料のインターネット・E化対応（CD-ROM廃止） 部門大会論文集ダウンロード方式 研究会資料電子化
	今後検討	部門論文賞、部門若手優秀論文賞、部門若手論文奨励賞論文査読促進賞の創設（英語論文賞も）
	アイデア	動画論文、動画プレゼンなど紙面以外の取り組み

B部門の活性化に向けた取り組み状況（2/4）

分類	状況	内容
生徒 / 学生	実施中	高校生による研究発表会「高校生みらい創造コンテスト」
	実施中	U-21 学生研究発表会 令和4年度から本部活動へ移管
	実施中	高校やSSHの指導をいただいている理科の先生へ学会誌配布と先生の入会支援のための戦略的事業
	実施中	令和3年度より継続する4件のブランチに加え令和4年度には複数大学を横断するブランチが1件設立。ブランチ支援活動も実施。
若手	実施中	部門大会でのYPC / YOC表彰 <small>YPC: Young engineer Poster Competition YOC: Young engineer Oral presentation Competition</small>
	実施中	若手向け見学会 (EWL) やフォーラム (技術委員会と連携)
	今後検討	新社会人向けの記事や雑誌の創刊
	今後検討	新社会人の会費減免

B部門の活性化に向けた取り組み状況 (3 / 4)

分類	状況	内容
中堅	実施中	学会に貢献した社会人をより積極的に表彰 令和3年度に部門「特別貢献賞」の創設、フェロー推薦基準見直しを行い、 制度を運用中
	アイデア	40歳以上向けの異業種交流会の開催 異業種の動向が見える記事や雑誌の創刊
キャリア アップ	今後検討	各会員の履歴書ページの製作、学生による研究紹介コーナー、留学体験談の 紹介コーナー
その他	実施中	レクチャー(動画)を部門Webで公開 『学生員 & 若手技術者セミナー』、『用語解説セミナー』を 部門会員を対象にオンデマンド配信
	適宜開催	社会的に大きなイベント(大災害含む)があった時の特別講習会 持続可能で災害に強い社会をテーマにしたセッションなど
	完了	部門ロゴマーク制定、部門旗作成
	アイデア	部門大会ポスターの背景に企業広告(新しい広告募集方式)

B部門役員会では、活動の活性化に向けた
皆様の**アイデア**を募集中です。

是非、下記のアドレスまで皆様の声をお送り下さい！



ieej.pes@gmail.com



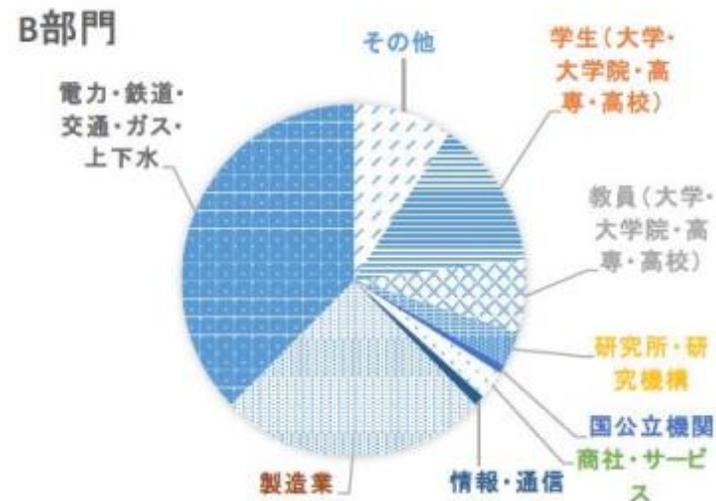
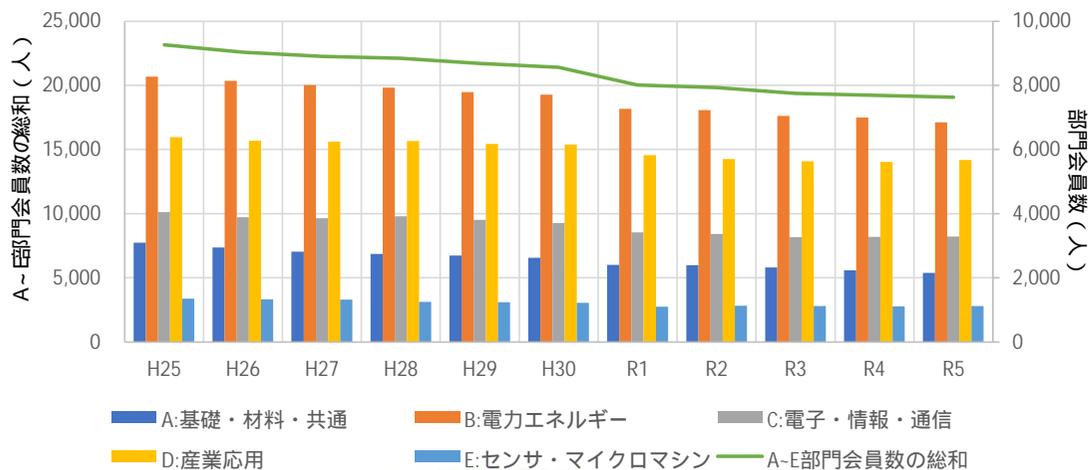
令和5年度の主な活動状況報告

12

1. 会員数の状況
2. 共通英文論文誌
3. 和文論文誌
4. 研究調査活動
5. 講習会・シンポジウム・フォーラム・研究会等の開催
6. 高校生みらい創造コンテスト
7. エネルギーワンダーランド
8. 学生ランチ
9. YPC (Young engineer Poster Competition)
YOC (Young engineer Oral presentation Competition)
10. 日・タイ合同シンポジウム
11. ホームページ掲載コンテンツの充実
12. U-21 学生研究発表会

1. 会員数の状況

部門会員数の年度推移 (H25 ~ R5年度)



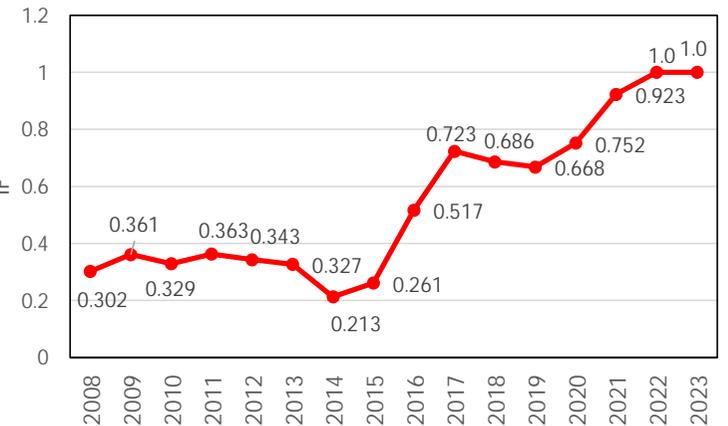
- B部門は、電気学会最大の会員数を抱える部門
 - **長期的にみると会員数が漸減傾向にあり**
- 会員は、アカデミア、製造業、公益企業の出身者でバランス良構成
 - **理論から実践・社会実装まで幅広い議論が可能**

2. 共通英文論文誌

● インパクトファクタ (IF) (2023年) : 1.0

- 2022年にIF= 1.0を獲得 ()
- 2016年から内外の著名者による「招待解説論文」を掲載し、IF向上に寄与

() 2021年までは小数点3位までの表記であったが、2022年より小数点1位までの表記となった。



● 査読の体制

- B部門論文委員会で担当 (B1:232名、B2:166名)
ご協力ありがとうございます。

● 査読期間 (投稿者による再提出までの期間も含む)

- 査読期間 : 5.50月 (昨年比 : 0.09月の増 なお、2016~2021の平均査読期間 : 5.94月)

● 実績 (共通英文論文誌)

投稿数 (2023年) : 論文 178件、レター 3件

掲載数 (2023年) : 論文 55件、レター 2件

- 令和4年「電力・エネルギー部門研究会における優秀論文発表賞と技術委員会表彰」特集号 (2024年6月号)

3. 和文論文誌

実績（和文論文誌B）

投稿数（2023年）：論文 92件、レター 3件

掲載数（2023年）：論文 70件、レター 1件



近年の論文誌の状況（実線：投稿数、破線○：掲載数）

和文論文誌B（IEEJB）

H10年をピークに和文論文誌への投稿は半減

和文論文誌の存続の危機！

共通英文論文誌B（TEEB）

和文論文誌から共通英文論文誌への投稿行動変容による増加

H26年以降、投稿件数はB部門和文論文誌を逆転！

掲載された和文論文の約1/3は
翻訳されEEJ (IF有)に掲載

皆様の和文論文誌Bへの
投稿をお待ちしています！

EEJ: Electrical Engineering in Japan、IF=0.4

4. 研究調査活動

分類	技術委員会	スコープ= 研究会テーマ	調査専門委員会 (2024年8月現在)	延べエキスパート数
B2	静止器技術委員会	1. 変圧器, 2. コンデンサ, 3. 静止誘導器一般, 4. 有限要素法による電力機器の電磁界解析法, 5. 電力用電力変換, 電力用無効電力補償装置	1. 電磁界解析を用いた革新技術開発調査専門委員会 2. 変圧器の保守・更新技術の最新動向調査専門委員会 3. 大電流エネルギーシステムの適用拡大と環境保全に関する技術動向調査専門委員会	103
B2	開閉保護技術委員会	1. 遮断器, 2. 断路器, 3. 負荷開閉器, 4. 避雷器, 5. ヒューズ, 6. 閉鎖形開閉装置, 7. ガス絶縁開閉装置, 8. 開閉保護システム, 9. その他関連事項	1. 高電圧遮断器へのセンシング技術の適用とその応用調査専門委員会 2. 中電圧スイッチギヤの環境対応の技術動向調査専門委員会	74
B1&B2	新エネルギー・環境技術委員会	1. 再生可能エネルギー利用技術 (太陽エネルギー, 風力エネルギー, 水力エネルギー, 海洋エネルギーなど), 2. エネルギー変換・貯蔵・利用技術 (MHD発電, 燃料電池, 水素エネルギー, 熱電変換, 蓄電池, 電気自動車など), 3. 省エネルギー技術, 未利用エネルギー利用技術 (廃熱利用発電, こみ発電, 熱供給, 熱輸送, 超電導送電など), 4. 環境保全技術 (有害物質除去・無害化, 温室効果ガス削減, 炭酸ガス分離・固定など), 5. エネルギー技術評価 (LCA評価, エネルギーシステム解析など)	1. 電磁界応答流体を基盤としたエネルギー・環境先進技術に関する調査専門委員会 2. 電力系統における電気自動車の影響・効果調査専門委員会	57
B2	原子力技術委員会	1. 原子力発電所計測制御, 2. 放射線計測, 3. 核融合, 4. 原子力発電所用電線ケーブル, 5. その他原子力・放射線技術に関するもの	1. 持続可能な社会構築に資する放射線技術の最前線調査専門委員会 2. 原子力の運転・保全に貢献するDX技術動向調査専門委員会 3. 挑戦的核融合炉技術調査専門委員会	68
B2	電線・ケーブル技術委員会	1. 裸線, 2. 電力用ケーブル, 3. 絶縁電線, コード, 4. 巻線, 5. 通信ケーブル, 6. その他関連事項 (付属品, 布設, 保守など)	1. 最新技術による架空送電線の保守・保安の高度化調査専門委員会	38
B1&B2	電力技術委員会	1. 電気事業, 2. 電力系統, 3. 発電 (電力用回転機を含む), 4. 変電, 5. 送電, 6. 配電, 7. 需要設備, 8. その他関連事項	1. スマート電力メーター活用の動向と展望に関する調査専門委員会 2. 自動交直変換器と電力系統の相互作用調査専門委員会 3. 配電設備のレジリエンス強化に関する技術動向と課題調査専門委員会	111
B2	高電圧技術委員	1. 高電圧の発生, 測定, 2. 高電圧試験, 3. 高電圧電界計算, 4. 絶縁設計と気体, 液体, 固体の高電圧現象, 5. 汚損高電圧現象, 6. 雷現象, 7. 過電圧と絶縁協調, 8. 高電圧応用, 9. 高電圧と環境	1. 電力設備等周辺の環境電磁界評価技術の高度化と最新動向調査専門委員会 2. 電気系インフラの雷に対する絶縁設計とイミュニティ対策に関する技術動向調査専門委員会 3. 稼働率維持を考慮した風車の雷害対策調査専門委員会 4. 雷リスク評価に基づく配電線耐雷設計手法調査専門委員会	109
B2	超電導機器技術委員会	1. 超電導マグネット技術, 2. 極低温技術, 3. 交流超電導技術, 4. 超電導導体技術, 5. 解析技術, 6. 応用技術, 7. 冷却技術, 8. その他関連技術	1. 希土類系高温超電導コイルの劣化対策調査専門委員会 2. 磁気力を活用した脱炭素・環境再生技術と超電導応用調査専門委員会 3. 超電導機器技術の将来的な技術動向協同研究委員会	69
B1	保護リレーシステム技術委員会	1. 送電系統の保護, 2. 送電変電設備の保護, 3. 配電系統および自家用受変電設備の保護, 4. 系統事故波および防止保護, 5. 分散電源連携系統の保護, 6. 保護リレーシステム技術と密接に関連したローカル制御 (自動復旧, AVQC等)	1. 統保護リレーシステムの信頼度の現状と今後の方向性調査専門委員会	50
B1	電力系統技術委員会	1. 系統計画, 需給計画, 電源計画, エネルギーミックス, アセットマネジメント, 2. 需給運用, 系統運用, 制御システム (周波数制御, 電圧制御, 安定化システム, 監視制御システム等), 3. スマートグリッド, 需要側管理 (需要側エネルギーマネジメント, デマンドレスポンス等), 4. 分散電源 (再生可能エネルギー, 蓄電システム等), 5. 系統解析, シミュレーション, 予測技術, 6. 電気事業制度, 電気事業経営, 環境評価 (電力小売自由化, 供給信頼度, 電力ビジネスモデル, 地球温暖化等), 7. 情報処理, 情報通信, サイバーセキュリティ, 8. その他関連する技術	1. 系統運用者教育・訓練体系調査専門委員会 2. 電力系統の監視制御自動化に貢献するAI技術動向調査専門委員会	77

延べ756名のエキスパートのご協力の下、活動が推進されています。深く感謝いたします。

注：延べエキスパート数：技術委員会と調査専門委員会の参加者の総和

5. 講習会・シンポジウム・フォーラム・研究会等の開催（1/3）

✓ 技術委員会が主催した会合（一部抜粋）

技術委員会	会合名（講習会・シンポジウム・フォーラム等）
静止器	「日本のライフラインを支える電力設備」(シンポジウム) 「電磁界解析の先進応用技術」(フォーラム)
開閉保護	「国内外におけるSF6ガス代替技術の動向と将来展望」(シンポジウム) 「最近の直流及び交流系統に要求される遮断器の技術動向」(フォーラム)
新エネルギー環境	「風力発電大量導入時の電力システム技術」(講習会) 「洋上風力発電の現状とその普及の鍵となる電力技術」(座談会)
電力	「配電設備の技術変遷と技術動向」(講習会)
高電圧	「高圧配電線の雷リスクマネジメント手法構築に向けた課題」(シンポジウム)
超電導機器	「The International Forum of Magnetic Force Control」(国際フォーラム) 「第22回 磁気力制御 磁場応用 夏の学校」(講習会)
保護リレーシステム	「電力系統の安定供給を支える保護リレーシステム技術入門」(出張講座) 「配電用変電所保護リレーシステム技術」(専門講習会)

5. 講習会・シンポジウム・フォーラム・研究会等の開催(2/3)

テーマ: 「The International Forum of Magnetic Force Control(磁気力制御国際フォーラム)」

2023年11月3日(金),4日(土) オンライン 参加者: 24名

テーマ: 「電磁界解析の先進応用技術」

2023年12月6日(水) ルーテル市ヶ谷コミュニティルームとオンラインのハイブリッド 参加者: 29名(現地14名)

テーマ: 「最近の直流及び交流系統に要求される遮断器の技術動向」

2024年5月22日(水) 電気学会会議室およびオンラインによるハイブリッド 参加者: 45名(現地12名)



5. 講習会・シンポジウム・フォーラム・研究会等の開催（3/3）

- R5年度の総開催数はR4年度と同程度（218件@R4年度）

【主な会合実績】（合計で216件）

技術委員会名	技術委員会	調査専門委員会	研究会	講習会	シンポジウム	フォーラム	座談会	その他	合計
静止器	4	21	4	0	1	1	0	0	31
開閉保護	4	25	2	0	1	1	0	0	33
新エネルギー・環境	4	13	2	1	0	0	2	0	22
原子力	4	6	0	0	1	0	0	2	13
電線・ケーブル	4	5	3	0	1	0	0	0	13
電力	4	8	4	3	0	0	0	0	19
高電圧	4	20	4	1	2	0	0	0	31
超電導機器	4	7	3	0	1	1	0	1	17
保護リレーシステム	4	4	2	6	0	0	0	4	20
電力系統	4	7	4	0	1	0	1	0	17
合計	40	116	28	11	8	3	3	7	216

6. 高校生みらい創造コンテスト(令和5年度)(1/3)

20

• 令和5年度も令和元年度の募集要項を踏襲

- 実験、測定、計算、設計などを自ら行った報告や高校生らしいユニークな考えで行った調査・研究など、学生・生徒の主体性やオリジナリティに期待
- 教員主導による授業の課題や夏休みの宿題としての活用などは対象外

• 応募論文23編(昨年度19編)

- 厳正な審査の結果、
最優秀賞1編
優秀賞2編
佳作賞5編
を選出した。



(高校生みらい創造コンテスト ポスター)

6. 高校生みらい創造コンテスト(令和5年度) (2/3)

21

表彰論文	タイトル および 研究者
最優秀賞 (1件)	「マグネシウムとヨウ素を用いた二次電池の開発」 福島県立福島高等学校 小山 拓希 様 他3名
優秀賞 (2件)	「シリコンの電気的特性についての考察と応用」 千葉県立船橋高等学校 世良 倅太郎 様
	「教育の場におけるスライム電池の改良～起電力の変動要素としてのホウ砂量の影響について～」 大阪府立豊中高等学校 松原 達樹 様 他3名



(最優秀賞)
福島県立福島高等学校



(優秀賞)
千葉県立船橋高等学校



(優秀賞)
大阪府立豊中高等学校

6. 高校生みらい創造コンテスト(令和5年度) (3/3)

22

表彰論文	タイトル および 研究者
佳作賞 (5件)	空冷による形状記憶合金アクチュエータの反応性向上」 東京都立科学技術高等学校 瀧下 桜介 様 他3名
	慣性計測ユニットを用いた筋電義手の自動制御」 東京都立多摩科学技術高等学校 鈴木 悠一郎 様 他3名
	有機熱電池に関する基礎研究」 広島県立西条農業高等学校 瀧本 皇我 様 他7名
	【LED発電の可能性について」 石川工業高等専門学校 岩田 和貴 様
	騒音による発電」 石川工業高等専門学校 塚崎 優華 様 他3名

7. エネルギーワンダーランド (1/2)

1. エネルギーワンダーランドとは?

これから進路を考える学生が電力・エネルギー分野に関心を持ってもらえる機会として高校生を対象に（高専生・大学生も可）、話題性に富む設備見学と分かりやすい解説講義からなる企画です。

2. 第26回目（2023年度）の開催実績

開催日時： 2023年3月26日（火）13:45～17:00

実施内容：

中部電力パワーグリッド株式会社 名城変電所設備 見学

愛知工業大学工学研究科教授・工電力研究センター長 雪田和人教授 による解説講義

参加者：高校生3名、大学生12名、大学院生2名、高校教員1名、社会人2名

2023年度の
見学および
講義の様子



設備見学の様子
(ケーブルの先端部を持つ参加者)



講義、ディスカッションの様子

7. エネルギーワンダーランド (1/2)

3. 参加者からの声

知識と視野が大きく伝わる経験であった
・実際に電力設備を見学でき、一部の部品に触ることができてよかった
・わかりやすい事例を用いた講義で理解しやすかった
等、毎年好評いただいています。



令和6年度についても、B部門大会の開催予定地である関西地方、またその近県を中心として、引き続き開催を検討して行く予定です。

過去のアンケートで要望が多かった「発電所（ダム・水力、火力、太陽光、風力）」
「地下変電所」等から見学することの可能な施設を選定する。

高校生が通常見る機会のない設備や事象に関連する解説を中心とした講義を
計画する。

学校訪問や各種イベントにおけるPRを中心に、引き続き学生の積極的な参加を
働きかける。

8. 学生ブランチ (1/2)

1. 学生ブランチとは?

- 学会全体の活性化および魅力向上を目的として、学生が主体的に活動（交流会，講演会，見学会等）できる枠組み

2. 参加校

令和6年は現在計5ブランチ，123名が参加
(令和5年実績：計5ブランチ，92名が参加)

- 広島大学電力・エネルギー部門学生ブランチ
- 電力システム技術東京私学連合ブランチ
(芝浦工大、明星大学、工学院大学等の合同)
- 名古屋工業大学電力システム研究室
- 電気学会琉球大学 Student Branch
- 60Hzブランチーず
(福井大学・大阪工業大学・大阪公立大学・徳島大学・岐阜大学の合同)

学生ブランチの活動例



活動風景



学生ブランチ活動紹介

8. 学生ブランチ (2/2)

26

3. 学生ブランチ・若手エンジニア懇談会

- 各ブランチの活動内容等について、活発な意見交換を実施
- 他校の学生との交流
コミュニケーション能力の向上，学会の活性化，人脈形成の一助
- 令和5年B部門大会からコロナ禍で中止されていた学生ブランチ・YPC発表者交流会を再開！



会場全体風景

4. メリット&ブランチ設立方法

- 学生員は論文ダウンロード無料です！
- ブランチを設立すると活動の幅が広がります！活動費の補助あり！
- 申込方法は，「電気学会B部門 学生ブランチ」Webページに記載！



ディスカッション結果発表

9. YPC と YOC (1 / 3)

(Young engineer Poster Competition)

(Young engineer Oral presentation Competition)

27

• 目的

- YPCでは、学生や若手研究者に、対面にてじっくりと議論できる場を提供
- YOCでは、優れた口頭発表を行った29歳以下の研究者を表彰し、モチベーションの維持・向上

• 経緯

- 2005 (H17) 大阪大会
 - 第1回 YPC (実行委・企画) YPC優秀発表賞の創設
- 2008 (H20) 広島大会
 - 論文 II (ポスター発表) として衣替え
- 2011 (H23) 福井大会
 - YPC奨励賞の新設
- 2018 (H30) 徳島大会
 - 論文 I でも YPCへの参加を可とする
- 2020 (R2)・21 (R3) オンライン開催
 - YPC中止の代替として YOC実施
- 2022 (R4) 福井大会 (ハイブリッド開催)
 - YPCは引き続き中止し, YOC実施
- 2023 (R5) 愛知大会
 - YPCを再開, YOCは引き続き実施

• YPCの概要

- 初日のお昼時に発表会開催、当日のうちに集計
- 午後の学生ランチ・YPC発表者懇談会にて「YPC奨励賞」授与。翌日懇親会にて「YPC優秀発表賞」授与



9. YPC と YOC (2/3)



ポスターセッション



学生ランチ・YPC発表者懇談会

●近年、ポスター発表数が増加傾向

- 学生，若手研究者にとって、良い議論の機会であることが浸透しつつある。
- **2024 (R6) 年大会は、前回大会に引き続き YPC を実施。**
- **好評な YOC も継続。**
- YPC 奨励賞、YOC 奨励賞は、学生・若手研究者にとって学会参加のモチベーションの 1 つ。
- 若手研究者の交流の場として、大会の初日に「学生ランチ・YPC 発表者交流会」と「YPC 奨励賞表彰式」を合同開催。

9. 学生ランチ・YPC発表者交流会 (3/3)

29

令和5年 電気学会 B部門大会 2023年9月4日(月) 14時～16時30分

テーマ 『技術者として、20年後の未来において家庭でのエネルギー自給率が100%であると提言するのは、妥当であるか？ 妥当でないか？』

コロナ禍の影響で3年ぶりに開催し、盛況でした！！

グループディスカッション

<参加者> 53名

- 学生ランチ 19名
- YPC発表者 34名

<プログラム>

- 研究調査運営委員会 委員長挨拶
- 学生ランチ活動のご紹介
- 交流会・ミニディスカッション
- 全体講評(続いてYPC奨励賞表彰式)



発表



集合写真



今年のテーマは...

令和6年 電気学会 B部門大会 2024年9月4日(木)

『ビジョン2030ビヨンド実現に向けた課題と実現方法について』

9月5日(金) 15:10～17:15
特別企画のパネル討論に学生ランチ代表者も参加

なにが課題？
どうやって実現？



10. 日・タイ 合同シンポジウム (1回 /年開催)

30

2011年度からタイ国内で IEEE PESタイ支部と共同で実施

2020,21年度はオンライン形式で開催

2022年度以降はハイブリッド(現地 + オンライン)形式で開催

- 2023年度は2024/3/18に開催
- 投稿論文数は日本から7件、タイから12件の計19件(22年度比4件増)
- 約50名の参加者があり盛況



D r. Channa rong (左)
岩田副部門長(当時)(右)

~ オープニングアドレスの様子 ~



IEEE PES Thailand:
D r. Nopbhorn



電気学会 B部門:
岩田副部門長(当時)



11. ホームページ掲載コンテンツの充実

- 「用語解説」をホームページに毎月追加しています
 - 現時点で161テーマについて解説。
 - アクセスが多いテーマ例：
 - 「ガバナンス制御」、
 - 「国際標準 IEC61850規格」など
 - 「Webセミナー」で動画を会員限定でオンデマンド配信
 - 「学生員 &若手技術者向けセミナー」
 - 「用語解説セミナー」
 - 動画を視聴するパスワードはメルマガで配信
 - X, Facebookにてイベントや新刊情報, ニュースレター等の更新状況をアップしています！
 - “フォロー”と“いいね”をお願いします！



12. U-21 学生研究発表会：本年度も開催！（1/2）

32

電気学会

U-21

中学生 高校生
高専生 大学生

学生研究 発表会

電気学会公認！

最優秀賞、優秀賞、奨励賞、佳作を授与！

総合型選抜入試での「探究」の証明にもどうぞ！

開催日

2025年3月上旬予定

*昨年度2024年3月9日(土)

開催場所

オンライン開催

申込締切

2025年1月上旬予定

*昨年度2024年1月9日(火)

応募資格

- ・ 21歳以下の中学生、高校生、高専生、大学生。連名者も同様。（大学生は年齢問わず3年生まで。）
- ・ 個人、連名、どちらでもOKです。部活、サークルなどの課外活動団体の参加も歓迎！

カテゴリー（予定）

SDGs(持続可能な開発目標)
エネルギー問題、省エネ
電気、物理、材料、化学
IoT、センサ、Society 5.0
Aやビックデータ
VR、ドローン、ロボット
DX

直接、電気に関係がなくてもOKです！

大歓迎！

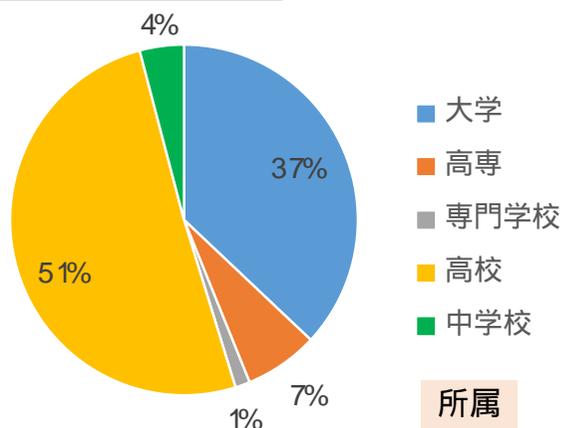
- ・ 製作物の実演
- ・ 実験や計算の結果
- ・ 調査報告
- ・ 授業での成果物
- ・ 社会への提言
- ・ 夢や理想を語る！

主催：・ 社会連携委員会 U-21
学生研究発表会運営WG
・ 新進会員活動委員会

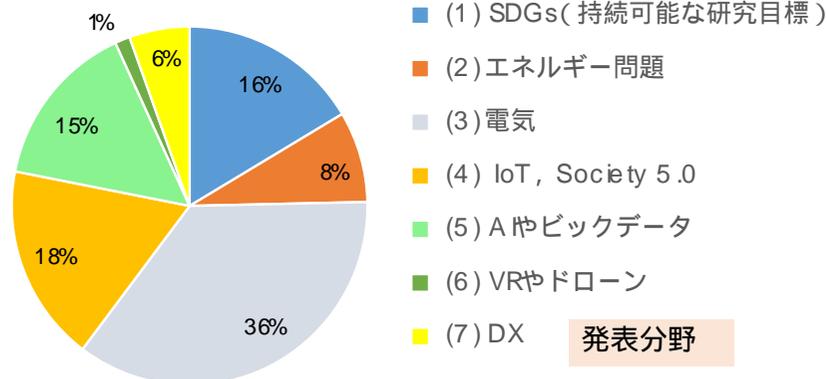
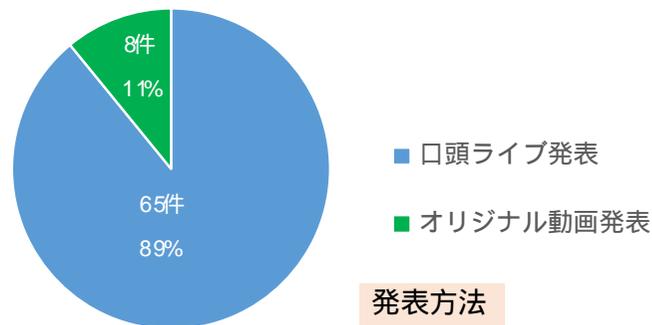
12. U-21 学生研究発表会（昨年度実施結果）（2/2）

- 2024年3月9日（土）オンラインで実施
- 22校 73件の発表（*2022年度34校 81件の発表）
- 大学生37%，高専生・高校生・専門学校生59%，中学生4%

発表の分類



延べ180名程度の参加者。
ご参加ありがとうございました。



B部門は、皆様の活動に支えられています。
今後とも、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。